

ウクライナ問題
～発生の原因について～

武生高校探求進学科

まず、私がこのテーマを設定した動機は、今、世界中が注目し、連日ニュースでも報道されるこの話題について、その背景をしっかりと理解をしておきたいと思ったからです。

次に、このテーマについての仮説ですが、私は、侵攻直後にロシアが表明していた、「NATOの不拡大」がウクライナ問題発生のかな原因となっていると考えます。隣国が、かつて冷戦時代に対立していたグループの仲間入りをするとすると、不安になってしまうという気持ちもわからなくはないためです。

この仮説をもとに、私は「物語 ウクライナの歴史」（黒川裕次・著）という書籍や、インターネットの多数の資料、動画をもとに調査を進めていきました。まずは、前記の書籍をもとに、ウクライナの歴史を、キエフ・ルーシ公国だった時代から知ることから始めました。そこから、インターネットの多数の資料を調査し、ほかにどんな理由で、ウクライナ問題が発生したかを調べていきました。

まず、このウクライナという国は、東西冷戦の時代という東と西のちょうど中間地点といえる位置にあります。遡れば、アジアのモンゴル帝国や中東のトルコ帝国といった時代においても、それらの大国とヨーロッパを結ぶ地理的に非常に重要な地点であったことが分かります。

更に、黒海に接し、広く豊かな土地を持つという国土自体の特色も重なり、悲しいことに、この国は中世からだけでも多くの戦乱や領土争いの舞台になってきた歴史がありました。

繰り返されてきた争いの歴史に、今回の当事者の一方であるロシアも、ロシア帝国そしてソヴィエト連邦として関わり、その支配をしていた時期もありました。

今回の問題の土台には、こうした歴史的な背景があると思われました。

これらを踏まえて、今回ロシアがウクライナに侵攻するきっかけになった一つの出来事に着目しました。

それは、ウクライナ東部の親ロシア派地域のロシアによる一方的な国家（ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国）としての承認（令和4年2月21日）です。

この出来事によって、ロシアは「ウクライナへの侵攻ではなく、ウクライナに隣接している「親ロシア国の保護」を名目にウクライナ国内に軍隊を送り込みました。

実際、ウクライナ東部の親ロシア派地域では、ロシアへの編入を望む声もあるらしく、それを利用したと見られます。

これまでの流れから見ると、ロシアとは時に争い時にはその一部であったウクライナの歴史を利用したということも言えるのではないかと思います。

次に、私は、ロシア側が停戦条約を結ぶにあたって、ウクライナ側に要求していることに着目しました。ロシアはウクライナ側に、「NATO非加盟による完全な中立国化」「ウクライナの完全非武装化」そして、「クリミア半島のロシア併合の承認」などを求めています。この停戦条約を結ぶにあたってのロシア側の条件が、なぜ、そもそも今回のウクライナ問題が起こってしまったかを理解するためのカギになると思いました。

一つ目と二つ目の要求は、ロシアの国内の安全を守る要求であるように見えます。

ロシアはその広い国土ゆえに、多くの国と国境を接しています。そのため、国境を警備するだけでも一苦勞であるという事実があります。しかし、ウクライナが中立国となり、非武装化をするとなると、ウクライナとの国境の警備が以前よりも簡単になり、安全がより確保されます。

そのため、一つ目と二つ目の要求に関しては、ロシア側の言い分も理解できるものでありますが、三つ目の「クリミア半島のロシア併合の承認」に関しては、ロシア側の、言うなればわがままであり、そして、ウクライナ問題の原因を考えるうえで、一番考察していかなければならない問題と考えました。

そのため、次の段落からは、これまでの調査で得た情報をもとに自分なりにウクライナ問題の発生の原因をまとめていこうと思います。

さて、以上の情報を経て、私はロシアがウクライナに侵攻した主な理由は三つほどあるのではないかと考えました。

まず一つ目の理由が、クリミア半島の問題です。このクリミア半島というのは、ロシアが地中海やアフリカに顔を利かせるために大切な港や、海軍の軍港がある場所であり、ロシアにとって“絶対欲しい場所“なのです。

ロシアは、2014年ウクライナ南部のこのクリミア半島に侵攻し、占領しました。しかし、国際社会からもクリミア半島のロシア併合は受け入れられなかったため、今回の侵攻後の停戦条約で正式に手に入れようとしていると考えられます。

二つ目の理由は、ウクライナの絶対的な中立を望んでいるということです。先ほども述べた通り、ウクライナがNATOに加盟せず、中立という立場の国になることがあれば、ロシアにとっては、国内の安全を確保し、欧米諸国（NATO）と隣接する危険が無くなります。

最後は、ソ連崩壊後、国内が混乱していたロシアにとって、隣国を中立化させ、占領した土地を併合し、国外への不安を解消していくことは、プーチン大統領が前々から掲げていた「強いロシア」を最も分かりやすく国民に示していく一つの方法だからであると考えました。さらに、これを遂行することによっ

て、ロシアだけでなく、プーチン大統領自身の力も、国内外へアピールすることができるため、ウクライナ侵攻という強硬手段に出たのではないかと考えられます。

実際に、報道では今回のウクライナ侵攻に賛成そしてプーチン大統領を支持する声が大きいと伝えられていて、その効果が出ていると見られます。

こうした強硬な行動によって国内の安定化（つまり国民の支持を得る）を図るという行為は、今から約80年前、人類史上最悪の戦争である第2次世界大戦を引き起こしたナチスドイツの行動と通じるものを感じてしまいます。

最後に、この課題研究を通して自分は、今ウクライナで起きている悲惨な出来事についての大まかな背景や、お互いの言い分などを知ることができました。しかし、背景を知り、理解したからといって、私たちが直接的に支援してあげられることはほぼありません。

だとしたら我々は、何もしないのか。

それではいけないと思います。我々は、この二十一世紀に起きた悲惨な出来事を二度と繰り返さぬよう、語り継いでいかなければいけないのではないのでしょうか。

最後に触れたように、外国への侵略と国内の安定という皮肉な事態は、この日本においても起きないとも限りません。領土、領海を巡って外国からの侵略を受ける可能性もゼロとは言い切れません。

自分たちも、こうした問題を自分ごととしてきちんと理解する必要を認識するとともに、こうやって考えたことを、社会に参加する立場になった時まで忘れずに、どうやって「正しくあるべきか」を常に考えられるよう努力していきたいと思いました。

～参考文献～

物語 ウクライナの歴史 著・黒川裕次

<https://www.youtube.com/watch?v=a6YBA86mwm8>

<https://www.youtube.com/watch?v=brRl5MyhP3Y>